

3年間の高校生活の中で、2年次はいわゆる中だるみの学年といわれている。入学直後の緊張感から解放され、入試本番までには時間があるためか、家庭での学習時間も思いのほかが増えず、また授業への参加意識も低くなることとが少なくない。このため、2年次は学力層の広がりが進み、固定化してしまつて学年でもある。

「中だるみの時期といわれ2年次ですが、高校生活の中ではとても重要な学年です。この時期にできるだけ生徒の進路意識を高め、学習習慣を身につけさせなければなりません」(2学年進路指導係・田高昌幸先生)

特に最近、高校生の学習意欲、教科への関心が低くなってきているように感じる、と田高先生は語る。どれだけ早い段階で生徒1人ひとりが自分に合った学習スタイルを確立できるかが、指導の大きなポイントになっているのだ。

年2回の面談週間

越谷北高校では近年、面談指導に力を入れている。各学年とも6月と11月の年2回、面談週間を設け、生徒の日々の学習の定着度、進路観などの把握に努めている。

「今年度から、生徒に面談シートを書かせることにしました。生徒の中には教師を前にするとうまくしゃべることができない者もいますが、事前に面談用の資料を準備させておけば、教師もスムーズに生徒の置かれている状況を理解でき

二つの客観データ

生徒の現状をより客観的に把握するための大きな取り組みとして、越谷北高校では同校独自の学習実態調査、そして「スタディーサポート」を実施している。

埼玉県立越谷北高校

詳細な生徒把握で 中だるみしがちな 2年生の学習を フォロウする

学習実態調査はアンケート形式で生徒の各教科・科目の学習状況を細かく調査するもので、全学年に対して5月と10月に実施している。生徒個々、クラス単位、学年単位で授業への参加意識の度合い、理解の程度、家庭学習の時間などを集計していく。

「毎日の授業に対する生徒たちの理解度は、教師は手こたえとして当然感じとっているものですが、この調査は『自分が行つ授業に生徒はどれだけ引きつけられているのか』を教師がより客観的に把握していこうというものです。生徒把握にとどまらず、調査結果を見ながら『このクラスは授業への関心は高いのに、理解が十分ではないのはなぜだろう』など、授業を行う

側として我々教師が反省し、今後の方針を打ち出していくための材料にしているのです」(田高先生)

一方、「スタディーサポート」は2年次の4月に実施している。中だるみしがちな2年生に対して、学習の基礎となる部分がどれだけ固まっているかを教師と生徒の双方が確認することができる機会を作つたのだ。「スタディーサポート」で分析した結果を、1年間を通して生かしていこうという意図による4月の実施である。

『スタディーサポート』は主に生徒1人ひとりのこれらの指針作りに生かされているといえるでしょう。学習スタイル、勉強方法の問題点、弱点を非常に詳細に知ることができずからね。また、本校は都内への交通の便がよいこともあり、中学生のころから塾や予備校に通っている生徒が多いのです。勉強をしなければという気持ちを持っているのは素晴らしいことです。しかし、学習スタイルがどうも塾依存の受け身的なものになっていて、といった集団としての課題も見ることができました」(福沢先生)

「スタディーサポート」の結果は、研修会などの場において教師間で共有化している。そして、面談週間で生徒へのアドバイスにも生か

している。

「面談で生徒は『勉強のしかたがわからないのですが』といった漠然とした質問をしがちです。そこで、『スタディーサポート』の分析結果を見ながら、『この教科はこんなふうに勉強したらどうだろう』と具体的な話をするようにしています。的確な働きかけ、アドバイスをしないうと生徒を伸ばすことはできませんから」(田高先生)



田高昌幸
昭和33年東京都生まれ、国語指導員。越谷北高校に赴任して20年目を迎える。今年度は2年生のクラス担任、進路指導係、野球部の監督も務める。



福沢慎一
昭和33年埼玉県生まれ、化学担当。越谷北高校に赴任して7年目。今年度は2年生のクラス担任と進路指導係を務める。

埼玉県立越谷北高校

重要な2年次の指導

「本校がめざしているのは、大学に入れる指導ではなく、大学に入ってから伸びる指導です。学問研究など進路選択の取り組みが活発な2年次は、学習指導の面だけでなく、進路指導でも特に重要な時期といえるでしょう」(田高先生)

4月の「スタディーサポート」実施に始まり、

2年生全体にいい影響を与えるはず」と田高先生は語る。

「入試を控え、各大学の難易度や入試日程を前にしたときでも、生徒が自分の志望と通りの大学に挑戦しようと思えるかどうかは、2年次での進路指導の成果にかかっているのではないでしょう」(田高先生)

3年間の生徒指導の中核として、越谷北高校の教師は2年次での働きかけを重視している。

二度の面談週間と学習実態調査、そして学問研究のためのさまざまな取り組みと、越谷北高校の2年次には生徒を刺激する取り組みが豊富だ。「2年次の学問研究の一環として、今年度から大学講義体験をスタートさせました。これは文系、理系それぞれ七つの学問分野の教授を招いて、90分間の講義をしていただきます。生徒は自分の興味・関心にしたがっていずれかの講義に参加するのですが、今まで気づかなかつたその学問の魅力に出合い、改めてあこがれを強く抱いた生徒も数多くいたようです」(福沢先生)

講義が終わってからは生徒は感想文を書くのだが、あまり勉強に熱心ではなかつた生徒が「大学に興味を持ち、受験に對してもやる気が出た」といった感想を書いてきたという。「1人の小さな変化が必ず